

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 2 月 9 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470502133		
法人名	社会福祉法人 天寿会		
事業所名	グループホーム 楽々八景山		
所在地	呉市焼山町字打田623番 (電話) 0823-30-3578		
自己評価作成日	平成27年1月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3470502133-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年2月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

共同生活居住において、家庭的な雰囲気の下で、理念の「愛情と笑顔を絶やさず、皆様と共に尊敬し合える、健康でゆとりのある豊かな暮らし」を目指し続けていると共に、家族の方にも気軽に來て頂ける雰囲気作りをし、一緒に利用者の方の事を考えていけるように心がけている。また、地域行事の参加や商店街への買物にも日々出掛け地域交流を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム八景山は、理念として「愛情と笑顔を絶やさず、皆様と共に尊敬し合える、健康でゆとりのある豊かな暮らし」を掲げ実践している。施設に入居されても普段の家庭の生活ができるように様々な工夫をされている。身体機能リハビリとして棒体操・リズム体操・椅子に座ったままできる体操を行い生活に必要な筋力・関節の動き・体力の維持・向上を目指している。又、日常生活のリハビリを積極的に取り入れ「出来ることは自分で」を目標に御自宅での普段の生活動作、入浴動作（衣服を脱ぐ・着る・体を洗う・またぐ・拭く）・トイレの動作（移動・ズボン、パンツを上げ下げする・座る・排泄する・拭く・立つ・座る）等を職員主導ではなく自立を目指して声掛けや誘導を実践し、少しでも長く楽しく過ごして頂く為に支援している。利用者が日々一緒に暮らしている事で、お互いを助け合う気持ちがよく出ている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	○新設時、職員全員で理念作りを決定した。その理念はいつでも見える所に掲げ、朝礼時に唱和している。新人教育の時にも、まず理念の意味から教え、職員全員が何かを考える時には理念に基づき行動するように心がけている。	理念の「愛情と笑顔を絶やさず、皆様と共に尊敬し合える、健康でゆとりのある豊かな暮らし」をリビング・事務所に掲げ朝礼時に唱和し、会議等で確認しながら実践している。利用者主体の介護に取り組み、本人の意思を第一にし、自由度のある支援が実施されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	○隣接する特養や自治会と協力し、盆踊り大会や秋祭り、もちつき大会等季節に応じたイベントに参加したり、地域で行われている行事に参加するように努めている。また日々の買物や散歩などで、行きつけの店では顔なじみになっている。色々な形の地域の方のボランティアも積極的に受け入れ交流を図っている。健康教室への参加もしている。	併設する特養での行事に参加し地元の方の日本舞踊や近隣の小学校の合唱団によるコーラス・保育園の訪問・高校生の和太鼓の披露があったり、近隣の高校生によるプラスバンドの演奏が行われ、利用者で笑顔一杯で交流されている。又近隣の高校での文化祭に利用者の書を展示して頂いて交流している。呉ポートピアでの福祉祭りに利用者の作品を展示して頂き交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	○運営推進会議で認知症の方の事例などを話し合いながら理解を求めている。また、ホームページでグループホームでの日々の出来事の記事などをのせ、どなたでも閲覧できるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	○運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、利用者の活動報告や写真で解って頂ける様に楽々たより等の配布を通して実状を伝えている。会議の際の意見を参考に改善や職員の向上に活かすように取組んでいる。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員・民生委員・呉市介護保険課・家族代表・施設係長・主任が参加し、会議では、ホームの活動状況や行事予定、ヒヤリハットなどの報告がされ、それに対して地域の報告や参加者からの意見、あるいは要望が活発に出され、検討されてサービス向上に活かされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	○運営推進会議に参加して頂き、相談や指導を受けやすい関係づくりを目指している。	運営推進会議での話し合いや電話・直接出向いての相談等事業所の取組を伝えながら連携を密にしている。地域包括支援センターからの空き情報の問い合わせや利用者の紹介等、従来の関係を継続し取組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○全体ミーティングなどを利用し、身体拘束をしないケアの研修を行い職員全員理解し、日々の介護に取り組んでいる。また無意識に行い易い「言葉の拘束」についても、職員間で意識して確認している。玄関の施錠は家と同じように夜は施錠するが、日中はいつでも誰でも出入りできる様に行っている。安全に暮らせるように、扉には鐘は付けている。	教育を考える会を設置し、身体拘束をしないケア・虐待防止の研修を行い職員間で共有し認識を深めている。計画的な外出支援や演芸やコンサート・生活リハ・身体機能リハ等により不穏な行動が減少し喜怒哀楽の表現が良くなっている。玄関の施錠はしないで、夜のみ施錠している。身体拘束をしないケア(言葉の拘束等)の在り方を職員間で考案し、実績を一つひとつ積み重ね身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○全体ミーティングを利用し虐待防止の為の研修を行い、職員全員が正しい知識を習得し、日々の行動・言動お互いが注意を払いながら虐待防止に常に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	○特別に学習の機会には設けてないが、過去に成年後見人制度を利用される可能性がある利用者がいた時に、家族・職員にどのような制度化の勉強は行った。今後も増えてくることが予想されるので継続的に勉強を行いたいと思っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	○契約を結ぶにあたっては、事前に家族はもとより本人にもできるだけ施設見学に来て頂ける様に声掛け説明し、契約を行う際にも十分時間を掛け文書による同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	○毎月の支払いは振込みではなく持参して頂く様にし、最低月に一度は家族との交流を行っている。その際に意見や共通認識を持つように心がけている。	運営推進会議に参加して頂いた時や、施設への毎月の利用料の支払いに来られた時に意見や要望等お聞きしている。又遠方の家族には、毎月状況報告の便りを送付し、定期的に電話等で連絡を取り合っており意見交換している。意見や要望等は会議で検討し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	○日々の職員の意見交換をできる様に心がけ、全体ミーティングを2ヶ月に1回開催し、全員の意見を出せる場を設けている。今年度より係長体制もとっており、在宅会議などで横の繋がりも強化され、意見交換も活発になっている。	管理者は、今年度より、係長制度を設け、事業所間の交流を深め、話しやすい雰囲気を作り、日頃から職員の意見をくみ上げるように努めている。又2ヶ月に1回全体ミーティングを開催し、全員の意見が出せる場所を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○業務に支障が無い限り、職員の希望を極力取り入れた勤務表をつくりようになっている。給与は勤務年数による昇給があり、個人の努力による資格取得などにも昇給に繋げるようになっている。親睦会における納涼会や忘年会などにより、ストレスの発散の機会や、職員との交流を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	○職員全員が順番に施設外研修を受講し、併設施設で行われている研修(応急救護など)にも積極的に参加している。それらを職員全員で共通知識となるように報告している。会社として教育会議メンバーを中心とした、新人、現任者、役職者といった、それぞれの立場での教育も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	○管理者は同業者との交流機会はあるが、職員は関わりを持つ機会は殆ど無い。研修で話しをしたり、個々での他事業所の交流はみられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	○「家での生活」を基本とし、買物や食事と一緒に行動する事により、いつ・どこでも話しやすい環境になっている。話し掛けられた時には、職員はいつでも向き合う姿勢をとるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	○事前面接や入所前には出来る限りホームの見学を促し、実際に見て頂きながら色々相談にのっている。入所後も家族からの相談を受け入れる様な環境づくりに努め、改善に向けて適切な対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	○入所申し込み時とサービス利用開始する時には、本人や家族の考えが変わっている事もある。その時「何が必要で、何が良いのか」を一緒に考えた上で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	○本人が持っている力を引き出せるように考え、自分でできる事は時間がかかっても見守り行って頂く様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	○グループホームに入所されたとしても家族としての関係が薄くならない様に、日々の生活をして頂ける様、日誌などで理解してもらい、いつでも気軽に来荘され話ができるような家庭的な雰囲気作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	○本人や家族の希望を聞き可能な限り、外出や外泊など出来るように努めている。理容なども今まで行っていた所を利用したり、家族以外の親戚友人などが来荘された場合でも、家でもてなす様な感じにし、いつでも寄れるような雰囲気作りに努めている。	地域との様々な行事、文化祭・夏祭り・秋祭り等を通じて交流が行われていて、地域の幼稚園児・小学生や中学生・高校生大人達等が多く参加し地域に開かれた施設として交流している。又、家族とお墓参りや、馴染みの美容院・理容院へ行かれ関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	○お互いが楽しく暮らせるように、性格や相性なども考慮し援助している。認知症のレベルや健康状態も含め、個々人何を求めるかも把握するように努め環境作りを行っている。時には全員で行動できることも考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	○今まで契約終了の理由では殆どが健康上の問題で日々看護が必要とする場合であった。併設施設に移られた方もいましたが、散歩などを利用して会いに行ったりしている。退荘後にも家族からの連絡などもあった場合にも適切に対応している。次の入所への相談なども受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	○家族や本人の思いを聞きながら行っている。個人の状況が変化した場合にも、どのような暮らしが本人の為になるのかを、職員間でも協議し日々の支援に活かせるように努めている。	日々の会話や些細な発言・言動等の中から利用者の思いや意向を把握し、画一化したケアにならない様、職員間で申し送りして共有している。思いの表出が困難な場合でも表情やサインを見逃さず本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	○本人や家族、担当ケアマネージャー等から情報収集し、個々の生活歴の把握に努め、支援に活かせるよう行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	○日々の状況(食事量、排便、バイタル)を業務記録に記入し、生活内容は日誌に記入するなど、職員全員がいつでも確認できるようにしている。緊急性のある伝達事項は連絡ノートにも記入している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	○日々の生活の中での本人とのコミュニケーションを取り、希望を組み入れると共に、家族来荘時などに話しをしながら思いの確認を行っている。往診日などで協力関係機関にも相談するなど意見を参考にし、職員間で話し合いを持っている。	利用者家族には、日頃の関わりの中で思いや意向を聞き取り、医師の意見を含め、関係する職員全員で1ヶ月事のモニタリングをベースにカンファレンスを開催し、意見交換、検討され現状に即した介護計画が作成されている。又、家族面会時には説明、話し合いの時間を持ち介護計画について理解を深めて頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○日々の業務記録(バイタル、食事量、排便)から、個人日誌に添付し生活状況も記録している。散歩や外出、買物などの行動も記入し、職員が確認し把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○施設という考え方より、「家ででの生活を送る」との考えの下に支援を行っているので、時間の枠にとらわれる事無く柔軟に対応している。体調を考慮に入れ、外出支援も多岐に渡り行っている。(初詣、紅葉ドライブ等)併設施設での催し事にも参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○家族や本人、来荘時の友人等からも情報収集に心がけ、今までと変わらない関係づくりができる様支援している。買物、散髪、高校への訪問など積極的にかわりを持っていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○入所時に本人や家族に説明し納得して頂いた上で、当施設のかかりつけ医、訪問看護ステーションとの協力機関での受診を支援している。月2回の往診や体調変化時の支持も受け、他の医療機関の受診に対しても対応している。	入所時に本人・家族の要望を聞き、かかりつけ医を決めている。大多数の利用者は、ホーム協力医を受診しており、訪問看護ステーションとも提携し支援している。医師は、第2・第4に往診に来られ、訪問看護は月4回(内2回は医師と同席)、薬剤師さんも来られ、利用者の健康状態を把握し支援している。看護師による職員への勉強会も開かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	○訪問看護ステーションと協力し合い、月2回の往診時の帯同や、24時間体制の受け入れ対応して頂き、体調面の質問なども随時受けて頂いている。それとは別に月2回の看護師のみの訪問もあり、勉強会などして頂き、知識の向上を図っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入院時には家族と職員が一緒に行き、病院の先生や担当看護師と話し合い、利用者の生活状況等の情報提供や健康状態などの情報交換をしている。その後も家族・病院との連絡も密に取る事に努めている。退院時にも情報の提供をして頂き、かかりつけ医や看護師に連絡を取り、退院後のケアに備えている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	○入所説明時「看取り介護に関する同意書」において、当施設で生活して行く中でのレベル低下が起こった時の対応を家族に説明しているが、入所時は元気な状態である為イメージがわからないのが現実である。入所後も色々な状況変化が起こる中、当施設のできる事、できない事の説明を家族にしながらか確認を行っている。今までに2名の方の看取りを行った。	入居時に重度化・終末期の在り方について、本人及び家族と話し合いが持たれ、利用者家族と意思統一を図られている。かかりつけ医とは、24時間体制の対応がとられ、終末を迎えた利用者家族は、泊まり込みで対応され、施設は支援している。看取りをされた後、ご家族の希望と施設側の配慮で見送りを利用者全員でされている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○併設施設での救急隊の方が行って下さる「応急救護の研修」に参加し初期対応の訓練を行っている。その他実際の事故や応急処置を経験した際には、職員全員の知識として話し合いの場を設けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	○併設している特養やデイサービスと合同に、年2回の消防非難訓練を行い、様々な状況を想定し訓練を行っている。地域と人々との協力というのは、立地条件的にも難しいと思われる。	消防署の協力の下年2回併設の特別養護老人ホーム・デイサービスと合同での避難・通報・初期消火等の訓練を行っている。夜間想定訓練では、2階からの避難を職員一人で行う訓練を実施し、いかに大変かを体験し共有している。消防署の職員が、AEDの使い方講習や心肺蘇生の研修をされ、職員全員で身に付けるようにしている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	○プライバシー保護に関するマニュアルを通して、全体ミーティングを活用し、個人情報や記録の取り扱いについての確認を行っている。理念に掲げている「共に尊敬しあえる」にもあるように、優しく思いやりのある接し方や丁寧な言葉使いを心がけている。	羞恥心・プライバシーに配慮し排泄時や入浴時には、ドアを閉める、バスタオルをかける等安全に配慮し、見守りしながらケアをしている。個人のプライドや思いを大切にし声掛けの工夫や同性介助、気持ちやタイミングを十分配慮し対応している。職員同士お互いに注意し合い対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	○利用者本人が決定できる環境を第一に考え、日々利用者とのコミュニケーションを取り、何を望んでいるかの把握に努め実現できるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	○日々の健康状態の確認をし、本人の希望に添って生活ができる様に努め、あまり時間の枠にとらわれない様に心がけている。何もしていない状況下では、職員からの案の下楽しんで頂く場合もある。			

グループホーム 楽々八景山

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	○本人の行きつけの美容院には家族の協力の下行き、その他の人も近所の理容室に行っている。その時にも個々の今での髪型などを考慮している。白髪染めも以前は行っていたが、本来ある姿に手を加えず自然体で身だしなみを心がけている。タンスの整理も適時行い、服など見やすい様に心がけている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	○家庭的雰囲気の中、職員と利用者が一緒に食事を作ったり、片付けも行い、食事は職員も同じテーブルを囲んで話しをしながら食している。買物にも一緒に出掛けお好みの食材の購入に努めている。	食事の準備ができる方には、野菜の下ごしらえをして頂いたり、食器洗い、お盆拭きを無理のない所で職員と一緒にしている。職員も同じテーブルで食事をし、利用者とは雑談しながら和やかに食事のひと時を過ごされている。又、いつまでも自分の口で食べることができるよう、嚥下リハビリ・口腔ケアに取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	○利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量を日々業務記録に記入し、職員が確認できるようにしている。外出や入浴後、体調不良の時にも水分補給をし脱水状態に陥らないように心がけ、飲みやすい飲料ゼリーやポカリスエット等も活用している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	○食後の声掛けや誘導により介助を行っている。義歯を利用されている方には夕食後外して頂き、ポリドントで消毒を毎日行っている。また協力機関の歯科の先生が定期的に往診して頂き利用者のケアや職員の指導も頂いている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○日常生活の様子観察により、個々の排泄パターンを把握し声掛け誘導を心がけている。外出時などの前にはトイレの声掛けを行い、外での不安を取り除くようにしている。	生活リハビリの動作として「出来ることは自分で」を目標に、トイレに移動する・ズボンやパンツを下ろす・便器に座る排尿・排便をするお尻を拭く・立ってズボン・パンツを上げる・などを生活に必要な動作を自身で行う実践し職員の声掛けや誘導で自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	○食事量の確認や便表の記入により、職員の確認ができる様にしている。日中の運動や、乳製品など便がちな人には特に注意している。医療機関にも相談し適切な薬の管理も行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	○利用者の方には週に3回は入浴機会を設けている。本人からの希望があれば出来る限りの対応に努めている。入浴時間は日中活動後の夕食前に行っており、時間も一人ひとり十分に取っている。	入浴は基本的には、週3回で午後、13時30分から17時30分の間に利用者のタイミングや希望を重視し一日4人ペースで入浴支援している。入浴を拒否される方には、職員の手この手の上手な声掛け誘導で入浴されたり、重度な方には、2から3人対応で介助し、シャワー浴や清拭、足浴等でも対応し入浴の支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	○夕食後、個々人のペースで過ごされています。テレビなど興味が起らない番組の時には、DVDでの懐かしの歌謡曲や童謡などを流し楽しんで頂いている。生活リズムを考え余り遅くの就寝にならないように声掛けも頂いている。しかし最近では他の方が休まれ始めると部屋に戻られ、早寝早起きの習慣が身につけている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	○提携医療機関以外の受診でも、薬は提携している薬局で出して頂く事により、飲み合わせの悪影響が起らないようにしている。職員もお薬説明書での確認や、往診日などで解らない場合は自ら質問し理解する努力に努めている。			

グループホーム 楽々八景山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	○常日頃より、利用者の得意分野で力が発揮できるように、手伝って頂ける仕事と一緒にやっている。買物にも一緒に出掛け、利用者に聞きながら選んで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	○職員同志が色々な情報を持ってきて、呉のカラオケ大会や、近隣の高校でのイベント等参加をしている。日々は散歩やドライブ、買物などを行っている。家族の協力で外泊や墓参りなども、その都度対応している。	集団ではなく、天気、体調に合わせて敷地内散歩や、ミニドライブをその方の希望に沿って行なっている。季節の変化に合わせて音戸へつつじを観賞に出かけたり、野呂山へは桜の花見に、絵下山には紅葉狩りにと外出している。又、グリーンヒルへ食事とドライブに、焼肉屋さんへ外食に、神社には初詣に、節分祭にと多彩に出かけ地域の人と交流している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○入所時に家族に説明し、本人にお金を持って頂いているが、現在は殆どの方のお金を事務所で預かっている。持っている方も常にどこかにしまわれ、持っていること自体覚えていないのが現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○家族や知人からなどの電話や手紙は取り次ぎを行っているが、自ら行う事はない。希望があれば時間帯を考慮しかける場合もある。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○共用の空間は、季節感のあるよう花や観葉植物など置くなどし、普段利用する所が清潔であるように、毎日利用者と一緒に掃除も行っている。台所も対面式オール家電で、会話をしながら作れるようにしている。気候の良い時などは、リビングとつながっているベランダで日光浴したり、花など外の景色を眺ながら楽しく過ごされている。	ゆったりとした広くて明るいリビングでは、季節感のある花や、観葉植物が置いてあり、利用者にとって季節感を感じ癒しとなっている。又、利用者が作った多彩な作品やイベント時の写真・書・絵が掲示されている。職員は、温湿度管理と清潔維持と座席の利用者の相性等に特に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	○広いリビングダイニングになっており、そこにはテレビを中心に4つのソファに2台の大きなテーブルがあり、利用者の殆どの方がこの空間で過ごされている。食事などは人間関係を考慮しているが、時には気分を変えて座ったりもしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○入所時家族に説明し、今まで使っていた家具や身の回りの物を持って来て頂く様にし、環境の変化を少なくし安心して過ごして頂ける様に行っている。部屋も2部屋に分かれる様にもなっており、広いスペースのなかで家具など設置しても歩き易くなっている。	居室は広く、清掃が行き届き、清潔感があり、窓は大きく明るく、自分好みの調度品や家具・手作りの季節の花の作品・写真・ソファ・椅子等持ち込まれ、居心地よく安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	○生活空間には手すりをつけベランダの窓には段差を考慮してアルミ製の板を設置している。浴槽の中にも滑り止めや手すりを付けている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム楽々八景山

作成日 平成 27 年 2 月 12 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	7	○声掛けの仕方の徹底・・・職員の入れ替わり等により、声掛けの仕方の差がみられる	○個別の対応を考える	○日々の職員間のコミュニケーションはもとより、声掛けの仕方が違う時など即時お互いが注意出来るようにする	○日々
2	48	○日常的な外出支援・・・高齢化に伴い体調面やADLの差も出ており中々外出の難しい方もいる。	○個別の対応を考える	○偏りのない声掛けをし、体調の良い時には買物、散歩等に出掛ける。	○日々
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。